

研究機関名：東北大学

受付番号： 2014-1-724
研究課題名 結腸がんおよび直腸がん由来の肺 oligometastases に対する体幹部定位放射線治療に関する多施設調査研究(JROSG)
研究期間 西暦 2015年2月(倫理委員会承認後)～2016年12月
対象材料 <input type="checkbox"/> 病理材料(対象臓器名) <input type="checkbox"/> 生検材料(対象臓器名) <input type="checkbox"/> 血液材料 <input type="checkbox"/> 遊離細胞 <input checked="" type="checkbox"/> その他(診療録と診断画像)
上記材料の採取期間 西暦 2004年1月～2013年12月
意義、目的 本研究の目的は、大腸がんの治療中に出現した少数肺転移(oligometastases)に対する体幹部定位放射線治療の効果および安全性について多施設共同で後方視的に検討するである。 結腸がん/直腸がんについては再発後の化学療法が発達し生命予後の延長が見られている。また、転移に対して可能な限り切除していくことで生命予後の延長が見込めることが報告されている。そのため合併症などの理由で切除不能である場合、肺転移や肝転移について定位放射線治療を実施する施設が増えてきている。しかし、原発性非小細胞肺癌に対する体幹部定位放射線治療の成績に比べ、転移性肺癌は局所制御率においても悪い傾向にあることが言われている。更には同じ転移であっても、結腸や直腸由来の転移性肺腫瘍は特に悪い傾向にあることを Yamamoto らは報告しているが、少数の症例に対する検討である。このことからより多数の症例で本研究を行い、本邦における結腸がんおよび直腸がん由来の肺 oligometastases に対する体幹部定位放射線治療成績および毒性を評価する。 本研究は東北大学が総括施設である多施設共同研究である。
方法 参加施設で結腸がんあるいは直腸がん由来の肺転移 oligometastases に対し、2004～2013年に体幹部定位放射線治療が実施された症例の診療記録から調査票に回答してもらい、各施設で匿名化されたデータを中央集計し解析する。各施設ではこのデータを鍵のかかる研究室の中のパスワードで管理されたコンピューターの中で管理し、実施責任者及び実施分担者のみ閲覧可能とする。 参加施設は日本放射線腫瘍学研究機構に参加する施設が主である。
問い合わせ・苦情等の窓口 東北大学大学院医学系研究科 放射線腫瘍学分野 教授 神宮啓一 TEL 022-717-7312